

海外拠点の活動

アジア・大洋州

北京日本文化センター

日中平和友好条約締結30周年を記念し、多くの文化交流事業を実施

2008年8月にオリンピックが成功裡に閉幕し、世界の注目を集めた中国は、一方でこの年、雪害や四川大地震などの大規模な自然災害に苦しみ、大きなニュースの多い一年となりました。そのようななか、日中交流の流れは着実に進展し、5月に胡錦濤国家主席が来日した際、日中両国政府間で「文化センターの設置に関する協定」が締結されました。これを受け、8月よりジャパンファウンデーションの北京の拠点は、中国において「北京事務所」から「北京日本文化センター(北京日本文化センター)」へと名称を変え、新たなスタートを切りました。10月には、日中両国政府関係者や文化関係者を招待して設置記念式典を執り行い、式典では和太鼓と三味線を交えた現代音楽グループSoothe(スーズ)が演奏を披露し、華を添えました。

また、日中平和友好条約締結30周

年にあたる2008年は、「日中青少年友好交流年」に指定され、両国で官民を挙げてさまざまな文化交流事業が行われました。ジャパンファウンデーションでは、11月に、日本のアニメソング歌手(美郷あき氏、HALCALI)による「J-pop Concert in Beijing」を実施。会場となった北京外国語大学の講堂には若者を中心に1,000人近くの観客が集まり、ステージと一体となって盛り上がりました。

日本研究・知的交流の分野では、「環境保護」「日本政治」などのテーマで日本理解講座を積極的に開催するとともに、北京大学国際関係学院の王緝思院長など有力な中国の知識人を日本に招へいし、日中の知的ネットワークの強化を図りました。一方、日本語教育分野では、当センターの日本語教育専門家を中心となり、広州において全国大学日本語教師研修会、北京と長春において全国中等日本語教師研修会をそれぞれ開催したほか、中国各地の日本語教師に対する情報提供やアドバイスをを行いました。



上: J-pop Concert in BeijingでのHALCALIのパフォーマンス
下: 文化センター設置記念式典で演奏するSoothe

ソウル日本文化センター

若者へ向けた交流事業を強化

2008年度は、特に若者に対する交流事業の強化と多国間交流の促進に取り組みました。若者向けの事業としては、日本でも人気のピアノ・デュオ「Les Frères」の公演が挙げられます。ソウル・釜山・済州での公演はいずれも大評判となりました。また、「ソウル国際漫画アニメーション・フェスティバル」に、アーティストのKAGAYA氏や森田修平監督、安藤真裕監督が参加。さらには、高校での日本語学習者の意欲向上を目指して「全国学生日本語演

劇発表大会」を日系企業など諸機関との協力により開催しました。また、韓国の若者の間で絶大な人気をもつ作家・吉田修一氏の『悪人』『ひなた』を翻訳した李英美氏に対し「第2回国際交流基金ボラナビ著作／翻訳賞」を授賞。式典には吉田氏も駆けつけ、マスコミでも大きく取り上げられました。

多国間交流を促進する事業としては、グローバル化時代の広域ネットワークづくりをテーマに釜山で開催された「日本語教育学世界大会2008」、さらに、日中韓3カ国を代表する作家・評論家が多数参加した「東アジア文学フォーラム」への協力を行いました。



韓国の音楽雑誌「MMJAZZ」の表紙を飾ったLes Frères

ジャカルタ日本文化センター

日本インドネシア友好年記念行事が目白押し

日本とインドネシアの国交樹立50周年となる2008年には、例年より一層多数の日本文化事業がインドネシアで実施されました。歌舞伎舞踊、地歌・箏曲、和菓子づくりのレクチャーとデモンストレーション、現代美術展「KITA!!: Japanese Artists Meet Indonesia」、コンテンポラリー・ダンス紹介事業「踊りに行くぜ!!」、筒井康隆原作の演劇『美藝公』公演、囲碁大会など、伝統文化から現代アートまで

のさまざまな文化事業をジャカルタのみならず地方都市でも紹介し、好評を博しました。

インドネシアの日本語学習者数は世界第4位、その大半が高校で日本語を学んでいます。そのため、高校日本語教師の教授力の向上支援に特に重点を置き、高校に派遣されている日本語教育専門家と連携して、高校日本語教師研修や勉強会の実施、選択科目用日本語教科書『さくら』の制作などを行いました。

また、日本研究の教育・研究拠点として、インドネシア大学大学院日本地域研究科、同大学日本研究センターへ



日本棋院から向井梢恵初段を審査委員長に迎えて実施した、ジャカルタ在住の日本・韓国・中国・インドネシア人囲碁愛好家による4カ国対抗国際親善囲碁大会

の支援を行ったほか、日本人専門家により、外交・社会・教育などを主題としたセミナーを開催し現代日本への理解を深めました。

東南アジア総局

対東南アジア事業の統括拠点

同局は、次の3点で構成され、相互的、複合的に実施されます。

- ①国際交流基金事業の地域包括・横断的観点からの方針策定
- ②関連機関との連携およびネットワークの構築
- ③国際文化交流の動向に関する情報収集・調査分析

開設2年目の2008年度は、基金の対東南アジア事業の方針および案件形

成に必要な調査・調整を中心に活動しました。具体的には、2009年の「日メコン交流年」に向けた関係各国との事業調整、シンガポールの「ジャパン・クリエイティブ・センター」設立準備過程における協力・調整などです。また、国際シンポジウム「東南アジアにおける日本語教育の展望」（2008年10月、主催：タマサート大学）の実現に協力したほか、「日本・東南アジア文化交流5カ年計画」に基づく知的交流プロジェクトの案件形成調査、知的交流委託調査なども行いました。

アジア・大洋州

バンコク日本文化センター

教員養成研修により

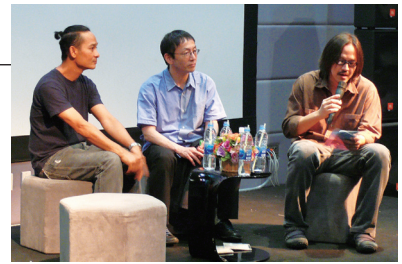
13人のタイ人の日本語教師が誕生

2008年度は、タイ人にも人気のある桜をテーマとした日本映画祭「さくら、日本の春」が好評を博したほか、演出家の野田秀樹氏、映画評論家の四方田犬彦氏、現代アーティストの岩井成昭氏、イラストレーターのキン・シオタニ氏など、さまざまな分野の専門家によるレクチャーやワークショップなどの交流事業にも力を入れました。クラシック・トリオ・コンサートや、当センターホールで2度開催したハウ

ス・コンサートも、当地の音楽ファンを魅了しました。

日本語教育では、中等教育機関の日本語教師支援のために、各種の教師研修を実施しました。10カ月間の教員養成研修(タイ教育省との共同事業)からは、新たに13人の日本語教師が誕生しました。また、ニュースレターおよび紀要の発行、教材制作、助成事業、「タイ人教師と日本人教師の協働モデル」や「音声の指導」などをテーマにした日本語教育セミナーなども実施しました。

11月にはチェンマイ大学日本研究センターが開設され、記念の一環とし



野田秀樹氏トークイベント(中央が野田氏)

て、タイ人漫画家ウイスット・ポンニミット氏によるレクチャーを実施しました。知的交流では、2月に京都(町屋)、東京(谷中)から関係者3名を迎え、「街並み保存とまちの活性化」をテーマに、同様の課題を抱えるバンコク、ナーン、プレー、チェンマイにおいてセミナーを実施しました。

マニラ日本文化センター

日比友好月間と日本語フィエスタで日本文化を紹介

当センターでは年に二回、日本文化紹介事業を集中的かつ多角的に実施しています。7月の日比友好月間では、沖縄舞踊公演をメインに、日本映画祭、現代写真展、J-POPアニメ祭などを実施。2009年2月の日本語フィエスタでは、日本語弁論大会をメインに、江戸風デモンストレーション、琴公演などを実施しました。日本のポップカルチャーへの関心が非常に高まるなか、伝統文化もバランス良く紹介す

るよう努めています。

日本語教育の分野では、フィリピン人教師の養成やネットワーキングに力を入れています。初めてマニラを離れて実施した全国フォーラムでは、100名を超える参加者を得ました。また、21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)で新たに派遣された若手日本語教師をマニラ首都圏の高校に配属し、中等教育における日本語教育導入のためのパイロット事業を開始しました。

知的交流の分野では、紛争地域であるミンダナオの人々との交流事業を特に重視しており、同地域のモスレ



沖縄舞踊公演の様子

ム女性知識人グループの訪日研修や、NGO若手リーダー、高校教師の招聘などを実施し、日本の市民社会との橋渡しに努めています。

ベトナム日本文化交流センター

日本語教育を中心に本格的に始動

2008年3月の開設以降、中学・高校での試行的な日本語教育への支援を中心として日本語教育事業を積極的に展開したほか、展示会、日本映画祭などの日本紹介事業も実施。2008年は日越外交関係樹立35周年にもあたり、ハノイ国家大学人文社会科学大学主催の日本研究国際シンポジウム、ハノイ大学での日本研究設立に向けた国際シンポジウムの開催をサポートしました。

日本語学習者が急増するなか、三菱商事の支援を受け『エリンが挑戦！に

ほんごできます。』のベトナム語版を制作、全国放映が実現しました。

また、センター併設のホールでは、日本の世界遺産パネル展、写真家ヴィエット・ヴァン氏が撮った日本写真展、勝恵美氏がベトナムの風景を撮影した写真展、在住邦人による「私の好きな、ハノイ」展、日本のおもちゃ展、日本語を学習する中学生の交流会など、親しみやすい活動を実施しました。

2009年春には、図書室のほか、最新の日本の雑誌や音楽を通じて日本の「今」を発信するスペースを新たにオープン、日本文化の発信拠点として活発に活動を展開しています。



「私の好きな、ハノイ」展、会場風景

クアラルンプール 日本文化センター

移転でセンター運営の効率化を図る

2008年度、当センターは事務所運営のさらなる効率化を目指し、9月にクアラルンプール南部にあるミッドバレーに移転しました。移転後はマラヤ大学、日本人会などに近くなり、当センター来訪者も増加しています。

文化芸術分野では、「UNIT ASIA (ジャズ)公演」「水野信行ホルントリオコンサート」「福田千栄子(琴)ツアー」「コンドルズ(ダンス)公演」「野田秀樹(演劇)ワークショップ・パブ

リックトーク」といった舞台芸術事業、「現代日本の陶磁器展」などの造形美術事業、毎年恒例の「日本映画祭」「定期日本映画上映会」などの映像事業、「和菓子デモンストレーション」「サラワク日本文化祭」などの日本文化紹介事業と、幅広い分野の事業を数多く展開しました。

日本研究・知的交流分野では、巡回講演会実施のほか、会議・研究への支援を通して研究者のネットワーク形成に努めました。

日本語教育分野では、地方大会も含め六つの弁論大会を共催で実施したほか、継続的に重点支援している中等日



コンドルズ公演

本語教育の基盤整備において、教員養成やシラバス作成への協力など、着実な成果を残しています。

ニューデリー日本文化センター

映画や音楽を通じた国際交流

2008年度は、ニューデリー日本文化センターでは、10月～1月に「インド巡回日本映画祭」、1月に「クラシックトリオ・デリー公演」、3月に「和太鼓アンサンブル“あべや”インド巡回公演」を実施するなど、インドにおける日本の紹介に精力的に取り組むとともに、インドの市民から広く好評を得ました。またブータンでは7月に「生け花ワークショップ」を行いました。

日本語教育の分野では、インド中等教育課程の日本語科目について、カリ

キュラム・テキスト制作、教師養成の支援を行いました。また、日本語教育アドバイザー3名をインドに配置し、またインド国内に加えて近隣諸国においても教師研修会を開催するなど、南アジア地域における日本語教育をサポートしています。

日本研究・知的交流の分野では、ネルー大学、デリー大学に対してそれぞれ客員教授派遣、図書拡充などの支援を行うなど日印間の知的交流をうながしました。

このほか、21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)の受託を通じて、若手日本語教師のイン



和太鼓アンサンブル“あべや”インド巡回公演

ド派遣、インド人日本語教師・学習者の訪日研修、若手クリエイター招へい、次世代リーダー招へいを実施しました。

シドニー日本文化センター

日本映画上映で1万人以上を動員

恒例の日本映画祭は2008年からメルボルンでも規模を拡大。シドニーとメルボルンの2都市で、アカデミー賞を受賞した話題作『おくりびと』をはじめとする日本映画を計21本、のべ31回上映して1万人を超える観客を動員しました。公募企画展「Facetnate!」では、日豪交流の将来を担う若手・新人アーティストによる個展を5回シリーズで開催、そのほか「からくり人形デモンストレーション」「くまもとアートポリス展」など、幅広い切り口

で日本の文化芸術を紹介しました。

日本研究・知的交流分野では、若手研究者の支援を目的とした公募論文集『New Voices』の第2号を印刷物とオンライン・ジャーナルの二つのかたちで刊行しました。また、日本文化・社会を紹介するため、「日本における多文化共生社会」「浅草の花柳界」「源氏物語」など、多様なテーマでの講演会を実施して多くの来場者を得ました。

日本語教育分野では、遠隔地に住む日本語教師のためのオンライン日本語講座の開発や集中研修、日本語弁論大会の開催などを通じて、オーストラリアの日本語教育を支援しています。



日本映画祭、会場風景

米州 | 欧州

トロント日本文化センター

最新の映像技術で歌舞伎の魅力を伝える

日加修好80周年を迎えた2008年度は、日本を紹介するさまざまな事業を展開しました。

カナダ各地で開催された芸術イベントや映画祭などで80周年記念事業を共催・助成し、地域レベルで日本文化をアピールしたほか、日本やカナダの映画会社や映像機器メーカーと協力し、カナダで鑑賞する機会が少ない日本の歌舞伎の舞台を鮮明な大画面デジタル・ハイデフィニション映像と精緻なステレオ音響でリアルに再現する

「シネマ歌舞伎」をトロントにて初上映。日本が誇る最新鋭の映像技術と洗練された伝統舞台芸術の美しさで、多くの芸術ファンを魅了しました。

また、日本語教育支援の一環として、教員や高校生を対象とした講演会やセミナーを開催したほか、アルバータ州に日本語教育専門家を継続派遣するなど、カナダ全体の日本語学習機会と学習者の増加に貢献しています。

知的交流の分野では、トロント大学および渋沢栄一記念財団と共催で、80周年を迎えた日加関係の今後の課題と方向性をテーマとしたシンポジウムおよび五百旗頭真防衛大学校長の講



迫力の高画質大画面で歌舞伎の臨場感を体験

演会を開催。日加の外交政治、経済など幅広い分野の専門家と一般市民が集いグローバルな視点で日加関係を考える機会を提供しました。

ニューヨーク日本文化センター

日本美術のユニークな位置づけを確認

文化芸術交流では、日本の映画の魅力や日本文化に触れる機会の少ない地方の人々に紹介する目的で、南部4大学での巡回映画上映会を実施、各地で好評を博しました。

また、「JAPANESE ART IN AMERICA: BUILDING THE NEXT GENERATION」と題した日本美術に関するシンポジウムをニューヨークのジャパソサエティと共催で実施し、米国における日本美術展・美術研究・収集のユニークな位置づけを確認し、今後の可能性と

課題を検討しました。

舞台芸術分野では、Performing Arts Japan(舞台芸術紹介日米共同事業)の事務局として、チェルフィッチュ7都市ツアーなど6件の巡回公演、鷹赤児の大駱駝艦とアメリカン・ダンス・フェスティバルのアメリカ人舞踊家とのコラボレーションなど11件の共同制作を支援しました。また、在米日本専門家中南米派遣事業の一環として、米国で活躍するアーティストを含む三つのグループを6カ国7都市に派遣しました。

さらに、日本研究・知的交流分野の事業として、日本研究米国諮問委員会



米国における日本美術シンポジウム(2009年3月、ニューヨーク)

の事務局業務を担ったほか、米国アジア学会年次総会など国際会議・シンポジウムなどをとおして、日本研究者のネットワーク形成を支援しました。

ロサンゼルス日本文化センター

全米の日本語教育事業を担う

日本語教育分野の新しい事業として、「中学高校教員交流(招へい)事業(米国教育関係者グループ)」を実施しました。

米国では初中等教育機関でも日本語教育が行われています。それら日本語講座を開設、または開設を検討している機関の校長や州教育行政担当の方々など25名を、2週間日本にお招きしました。参加者は東京、下田、京都を廻りながら、日本の教育・文化・社会の状況の視察や、日本の先生方・

教育行政の責任者の方々などとの意見交換を行いました。

この事業に参加した米国初中等教育機関の校長や教育行政官の方々などの対日理解や親日感情が一層促進・醸成されることで、参加者の日本語教育に対する理解が深まり、米国における初中等教育レベルの日本語教育のさらなる拡充や質の向上につながることを期待しています。

文化芸術では「能楽レクチャー・デモンストレーション」を実施、米国西部5都市を巡回しました。全会場満席となり、ローカルメディアにも多く取り上げられる大盛況の事業となりました。



中高教員米国教育関係者が参加した文化体験

メキシコ日本文化センター

「武道の精神」展に2万人もの来客

国際巡回展「武道の精神」展には2万人近い観客が集まり、大きな反響を呼びました。剣道、柔道などの武道に励む方々に、特に熱く迎えられました。

メキシコ国立シネマテークとは例年日本映画祭を開催しており、本年度は小津安二郎監督作品を特集上映しました。人気と評価の高い小津作品を観に、多くの映画ファンが集まりました。

尺八、琴、三弦による音楽公演では、国立芸術宮殿のホールが満席となるほどの盛況ぶりで、演奏者のイン

タビューや公演の様子が2度にわたって地元FMラジオ局によって放送され、日本の伝統音楽が多くのメキシコの方々に届きました。

日本語教育に関しては、「2008年度日本語教育シンポジウム」が開催され、メキシコ、グアテマラ、ニカラグア、エルサルバドル、ボリビアから124名もの日本語教師が集い、日本語教師のネットワーク形成に寄与しました。

このほか、中米地域唯一の海外拠点として、近隣諸国において実施される日本文化紹介事業に協力するため、メキシコ在住の日本文化専門家を派遣する事業も実施しました。



尺八、琴、三弦の公演

サンパウロ日本文化センター

日本人移住100周年記念を祝う

2008年、ブラジル全土で、2,500件以上に及ぶ日本人移住100周年記念事業が催されました。6月のサンパウロでの記念式典には約4万人が参加し、同時期に開催された日本文化週間では10日間で170件の催しが開かれ、観客数は延べ12万人に達しました。

サンパウロ日本文化センターは、日本文化週間の実施に関わったほか、年間を通して「加藤みや子コンテンポラリーダンス公演」「ライフがフォームになるとき——未来との対話展」「カ

ラオケ日本語学習キャラバン」など数多くの事業を実施しました。

また、日本文化紹介専門のテレビチャンネルJBN(ジャパンブラジルネットワーク)が同年6月に誕生したのを機に、当センターでは日本文化紹介番組をJBNと共同制作するプロジェクトを開始しました。今年度には「味覚の知恵・和食文化シリーズ」などの36番組が完成し、それらは順次同チャンネルで放映されています。これによって、より多数の人々を対象とした日本語教育および日本文化紹介が可能となりました。



加藤みや子コンテンポラリーダンス公演

ローマ日本文化会館

源氏物語千年紀関連イベントを企画

源氏物語千年紀となる2008年、ローマ日本文化会館では、平安かなのデモンストレーションや源氏物語絵巻講演会と絵巻の複製展示、光源氏を主人公とした狂言と詩の公演、源氏物語イタリア語翻訳者の講演とリーディング、香道デモンストレーションなど、多くの関連事業を行いました。

また源氏物語関連以外にも、アカペラ公演やのこぎりコンサート、津軽民謡とサクスのコンサートなど多彩な公演事業を実施。映画では、アニメ特

集や川喜多かしこ特集を行い、展示では、日本の現代写真展、人形展、書道展、篠田桃紅展を開催しました。

日本の地方自治体や当地の外部機関との協力事業も積極的に行っており、東京都と東京・江戸展を開催し、北陸の工芸・現代ガラス工芸展では富山市と協力。また、雅楽公演をローマ・オーディトリウムで行いました。

ローマ以外でも日本関連イベントが盛んに行われる近年、モデナ、サンマリノ、マルタでの尺八・箏公演やフィレンツェでの雅楽公演など、当館も地方や近隣国での事業実施を積極的に支援しています。



「狂言の起源、技術、表現方法」
レクチャーデモンストレーション
© Mario Boccia

日本語事業では、多様な環境にある学習希望者の要望に応えるべく、引き続き夜間や土曜日のコースを開講しています。また日本語教師に対し日本語教授法セミナーなどを開催しました。

欧州 | 中東

ロンドン日本文化センター

日英外交関係樹立150周年を記念した事業を展開

2008年は日英外交関係樹立150周年であり、日英関係者が連携して「Japan-UK 150」を展開しましたが、当センターも年間を通じて事業を増強しました。

日本研究・知的交流分野では「日英関係を動かした人たち」レクチャーシリーズを立ち上げ、三浦あけみ(ウィリアム・アダムズ)、長州五傑などを取りあげました。文化・芸術分野では日英ダンス専門家によるシンポジウム、

サウンドアーティストの藤本由紀夫氏の講演、キュレーターの片岡真実氏の現代美術レクチャー、英国人俳優による日本人脚本のドラマリーディングなど多様なトピックと切り口を設けました。また映画分野では、映画評論家の佐藤忠男氏の講演のほか、テーマ別の連続講座および英国各地での巡回上映会を行いました。

日本語教育分野では、当センター開発のリソースや英国の試験制度に沿った教師向け講習会、ノンネイティブ教師向け日本語講座、一般学習者向けのTalking Contemporary Japan講座、スピーチコンテスト、日本語コー



ノンネイティブ日本語教師向け講座
リフレッシャー・コース

ス導入説明会など、教師育成支援、学習者奨励、日本語教育制度導入支援の多面的な事業展開を心がけました。

ケルン日本文化会館

アニメのワークショップや食のデモンストレーションで日本ファンを開拓

当館では現代日本文化の紹介を軸として、展覧会、音楽会、映画会、講演会、日本語の普及およびシンポジウムなどの知的交流にも力を入れています。アニメーション作家のツジシンヤ氏によるワークショップ、ヨーロッパ薬膳料理のデモンストレーションなどを現代日本のポップカルチャーとして紹介し、新しい日本ファンの開拓を目指しました。またドイツと日本の若手アーティストが「対話」しながら共通の

テーマで展覧会を実施する「対話展」を2001年から継続的に開催し、日独の新しいかたちでの共同事業を提案しています。舞台芸術分野では現代音楽から伝統音楽までバランスをとりながら全ドイツでの事業展開を重視し、映画の分野では日本映画を継続的に上映・紹介するドイツでは唯一の公的機関として活動しています。

一方、知的交流事業としてはケルン大学との共催で「高齢化社会シンポジウム」を開催、日独に共通する将来の課題である高齢化社会の諸問題を取り上げて問題提起を行うとともに、さまざまな市民活動も紹介できました。



ツジシンヤ アニメーションワークショップ
© 上野潤

パリ日本文化会館

日仏交流150周年の交流事業を展開

「日仏交流150周年」にあたる2008年は、仏全土で例年以上に多くの交流事業が展開されました。パリ日本文化会館でも、日仏関係の原点を紐解く講演会「1858年の日仏修好通商条約締結とその後の日仏関係の展開」をフランスの第二帝政アカデミーと共催し、多数の参加者を得ました。

知的交流への取り組みと並行し、より現代的な日本の姿を示すことにも力を注ぎました。春には建築をテーマとした巡回展「パラレル・ニッポン――

現代日本建築1996-2006」、秋には日本のすぐれたプロダクトデザイン160点を一堂に集めた「WA――現代日本のデザインと調和の精神」展を開催。また、和菓子づくりや日本独特の食材・調味料を紹介する講演会やデモンストレーション、寅さんシリーズなどの人気作品24本を上映した映画制作会社特集シリーズの第2弾「松竹の歴史」、ポップユニットHALCALIや、実力派の若手ダンサー森山開次氏の公演など、多彩なジャンルの事業を実施しました。

ほかにも茶道などの教室事業や日本語教育推進事業についてもアイデアを



「WA――現代日本のデザインと調和の精神」展、会場風景
Photo: C.-O.Meylan

練りながら引き続き取り組んでおり、パリ日本文化会館が取り組む日本紹介は、多様なレベルで着実に拡大しています。

ブダペスト日本文化センター

日本・ドナウ交流年の開幕

2009年は日本とハンガリーが国交を樹立して140周年、戦後国交を再開して50周年にあたり、オーストリア、ルーマニア、ブルガリアの三カ国と共に、これを記念して日本・ドナウ交流年とし、さまざまな文化行事が行われております。1月28日、29日には、和太鼓、三味線、笛の音楽グループ「ようそろ」が、リスト音楽院大ホールにほぼ満席の客を集めてオープニング公演を行い、大成功を収めました。この後12月末までに大小60以上のイベン

トが予定されています。

また、昨年始まった日本・ハンガリー協力フォーラム特別事業が2年目を迎え、現地日本語講師雇用支援も新たに7機関を加え、合計で10機関に支援を行ったほか、教師研修や日本語教育シンポジウム、ハンガリー語版日本語教科書の編集も行いました。

このほか、文化講演会、映画会などを毎月定期的に行ったほか、9月には当地のアニメファンが集うアニメコンに参加して、書道ワークショップ、日本語体験講座、日本クイズなどを行い、多くの若者に日本文化の楽しさを紹介しました。



アニメコンでの書道ワークショップ

全ロシア国立外国文献図書館「国際交流基金」文化事業部（モスクワ日本文化センター）

待望のモスクワ拠点が開業

歌舞伎が日本を離れて初めて海外での一歩を記した地であるモスクワに待望のジャパンファウンデーションの拠点がオープンしました。同拠点は、全ロシア外国文献図書館の協力のもと、2008年7月に開設され、2009年1月からは図書館の一般利用も開始され、活動を始めました。

日本車と日本レストランが席卷するモスクワでは、多くの日本ファンが本

物の日本文化に接する機会を待ち焦がれています。このような声に応じて2月に開催した「日本の美しい本」展と柏木博教授(武蔵野美術大学)の講演会、3月に開催した「死の灰」展と写真家の細江英公氏講演会、染め刷り師の木田俊一氏とのトークショーは大きな反響を呼びました。

また2月から3月にかけて、源氏物語の翻訳で著名なソコロヴァ＝デリューシナ氏(1993年国際交流奨励賞受賞者)による日本文学連続講義を計4回開講しました。さらに、日本語、折り紙、生け花などの講座も根強い人気を保っており、センター内で無料で実施



写真家の細江英公氏と染め刷り師の木田俊一氏とのトークショー

したこれら講座には多くの受講生が参加しました。

カイロ日本文化センター

日本語教育を中心に日本を紹介

日本についての一般情報に直接触れる機会が少ないエジプトでは、日本語学習者を中心に、継続的な文化体験を通じ、日本を深く理解する知日家を育てることが大切と考えています。既存の生け花コースやお茶会に加えて、前年度に専門家を招いて実施した凧づくりのノウハウを活かした凧ワークショップや、民間の文化センターでの折り紙講座を開始し、好評を得ました。

日本語教育と日本研究では、一般向け日本語講座を強化した一方、カイロ

大学などの大学の正規科目の発展のために協力を継続しました。特に2004年に修士課程を新設したアインシャムス大学に対しては、同課程の確立を目標に日本語教育専門家と客員教授の派遣を行い、大学院生の論文指導などを実施しました。

また、中東地域をカバーする広域事務所として、第8回中東日本語教育セミナーの開催(8カ国50人が参加)、日本語教育アドバイザーの出張指導(クウェート、ヨルダン、モロッコ)、在欧州日本文化専門家派遣事業(和太鼓公演[リヤド、マスカット]、ピアノ公演[ジッダ])などを行いました。



第8回中東日本語教育セミナー